

広がるまちの自主防災 災害への備えは自分たちも

余別自主防災チームが

『津波避難路』を除雪

津波発生時の避難路と避難場所を確保することを目的に、余別自治会（井端順司会長、70世帯）が自主的な取組を始めました。

余別自治会では、昨年11月から町が地域毎に開催している

で街中の高台にある「雙源寺」と定めました。

「地域防災住民会議」を受けて、「発生から避難までに時間的に余裕のない津波については、自分たちで避難対応に取り組まなくてはいけない。」と自治会役員や消防団員、婦人会等の役員を中心に「自主防災会議」を開催し、『徒歩による津波避難場所』として、避難が比較的容易

また、「いつ津波は発生するか分からない」、「行動がなければ意識が薄れる。」との意見から、冬場の避難路の確保のための除雪を自主防災チームが行うこととし、2月28日、除雪機やスコップを持ち寄り、高台のお寺に通じる道路や本堂前の除雪を行いました。

今回の作業の中心となった自主防災チームリーダーの能代谷政敏さんは、「崩れそうな石垣の整備など多額の費用が必要な対策は、町にお願いをしなければならぬが、自分たちで出来ることは、自分たちで行うよう、今後とも皆で協力していきたい。」と話していました。

余別自主防災チームでは、今後、食料や飲料水の備蓄などに



▲避難路が確保された道路

ついで、検討を重ねていく予定です。

町が開催している地域防災住民会議では、各地区でその具現化が必要な、多くの課題や提案が提起されています。町では、各地区で提起された課題解決に必要な財源措置を含めた対策を検討し、その解決に取り組んでいくこととしています。

町民の皆さんには、普段から『今、災害が発生した場合の自分がとるべき行動』について、考えておいていただきたいと思います。

いざという時のために・・・

非常持出品・備蓄品を準備しておきましょう！

☑ チェックをつけて確認してみましょう。

最低限そろえておきたいもの（非常持出し品）

- | | | |
|---|---|--|
| ☐ 現金（小銭も含む） | ☐ ナイフ、缶切り、栓抜き | ☐ 携帯ラジオ（予備電池を含む） |
| ☐ 車や家の予備鍵 | ☐ 応急セット | ☐ マッチ又はライター |
| ☐ 貴重品（預貯金通帳、印鑑など） | ☐ 常備薬・持病薬 | ☐ 筆記用具 |
| ☐ 健康保険証又はコピー | ☐ タオル・ティッシュ・ビニール袋 | ☐ 防災ずきん又はヘルメット |
| ☐ 身分証明書（免許証、パスポートなど） | ☐ 着替え（下着、上着） | ☐ 笛やブザー |
| ☐ 非常食（カンパン、缶詰など） | ☐ 懐中電灯（予備電池・電球を含む） | ☐ 皮手袋又は軍手 |
| ☐ 飲料水 | ☐ 携帯電話（充電器も含む） | ☐ 緊急時の家族、親戚などの連絡先 |

災害後に備えるために（非常備蓄品）

- | | |
|---|--|
| ☐ 食品（缶詰やレトルト食品、ドライフーズや栄養補助食品、調味料などを数日分備蓄しておきましょう。） | ☐ ウエットティッシュ・トイレットペーパー |
| ☐ 水（飲料水は大人1人当たり1日3リットルが目安。最低3日分の用意を。） | ☐ 燃料（卓上コンロ、固形燃料、予備のガスボンベなど） |
| ☐ 使い捨てカイロ、マスク、新聞紙など | ☐ 簡易食器・鍋・やかん、アルミホイル、ラップなど |
| ☐ 予備の眼鏡、コンタクトレンズ | ☐ 紙おむつ |
| ☐ 洗面用具（石けん、歯ブラシなど） | ☐ 生理用品 |
| ☐ 毛布・アルミ製保温シート、寝袋など | ☐ 粉ミルク・哺乳瓶（赤ちゃんに必要なもの） |
| ☐ 工具類（スコップ、バール、ロープ） | ☐ その他自分の生活にかかせないもの |

※ご自身の環境に合わせて必要なものを準備してください。



▲雙源寺の道路と本堂前の除雪

～コンブの森の再生は、
「森・川・海」のつながりから～
水産業や漁村の多面的機能を発揮！
余別・海HUGくみたい



▲事例報告を行う中畑さん（左）と山田さん（東京都）

れており、余別沿岸で過密に生息するウニの除去、胞子を出すコンブ母藻の投入によりコンブ藻場の再生に努めてきました。

また、海水に含まれる栄養物質の不足も考えられており、保護水面に指定される余別川上流でサクラマス

のサクラマスを川に遡上させ、余別川を通じて多くの栄養物質を海に届けるための活動や「元気の森」での育樹活動も行ってきました。

水産庁からモデル活動組織として選定

平成25年度からは、これまでの海と川での活動に加えて、「本格的な植樹活動」を取り組み初めました。これは、余別川流域の環境保全のために、河畔林育成のための無立木地への植樹や外来樹木ニセアカシヤの除伐などを行っていくものです。

この活動により、「森・川・海」の全域を活動対象としていることが、全国で活動する団体の中で、先駆的・模範的なモデル活動事例として認められ、昨年8月に水産庁から「モデル活動組織」に選定されました。（全国25団体。道内2団体）この指定により専門的な技術支援を受けて活動を続けています。

余別小児童との連携

新たな植樹活動では、余別川流域の土壌により適した苗木を使用するため、地元の山採りした種から苗木を育て、これを数種類混ぜて植え込むことで成長を競い合わせる方法（混播・混植法）を取り入れています。昨年11月には、会員の青年漁業者

が拾い集めた種を地域の自然環境を広く学習している余別小学校の児童（6名）と用土を造り、ポットやプランターに植え込む作業を行いました。今後は水やりなどの管理をお願いし、植樹の適期を迎えた際には、余別川上流域で会員と共に植樹を行うことを計画しています。



▲余別小学校児童との苗木作り

北海道代表として取組事例を報告

去る2月20日、21日と水産庁から選定された全国のモデル活動組織が参集して、東京ビックサイト（東京都江東区）において事例報告会が開催されました。

北海道からは余別・海HUG



くみたいが代表として佐藤会長以下4名が参加。事例報告では『「森・川・海」の栄養循環の一役を担う植樹活動』と題して、中畑正和さん（神岬町）と山田孝弘さん（余別町）がステージで15分間の発表を行いました。

助言者からは植樹活動での楽しさや苦労について質問され、中畑さんは「未経験の林業に仲間と触れたことはとても新鮮だったが、慣れない作業で苦労しました。」と答えていました。また、この上京中、水産庁の担当部署も訪問するなど東京でも精力的な活動を展開していました。

「森・川・海」の栄養循環を促進させる取組

昭和40年代頃から積丹半島の沿岸で目立ち始めた海の砂漠化現象「磯焼け」が、近年ではウニの身入りが悪いなど漁業に深刻な影響を与えている中で、水産庁の支援を受けて、平成22年6月に積丹地区の浅海漁業者と東しゃこたん漁協役職員が「余別・海HUGくみたい（佐藤正樹会長、会員132名）」を結成し、漁業関係者自らがその対策に乗り出しています。

磯焼けの原因は、ウニの食害、コンブの胞子不足などが考えら



▲サクラマス発眼卵の埋設作業

町老人クラブ連合会交流会が開催

～104名の元気な高齢者が参加～

平成25年度積丹町老人クラブ連合会交流会（荻野正会長）が2月27日総合文化センターで開催され、各地区の老人クラブ会員など104名が参加し、交流を深めました。

午前中は、札幌市の五輪橋産科婦人科小児科病院名誉理事長の丸山淳士氏による「充実した人生のための心と体の健康」と題した講演が行われ、一昨年の軽妙な語り口の講演に反響が大きかった同氏による再度の講演は今年も来場者を大いに楽しませていました。

また、午後からは、美国宝寿会、野塚悠ゆう会の皆さんによる歌や舞踊が会場を盛り上げ、最後は参加者全員による恒例の「青い山脈」と「ボケない小唄」で会を締めくくりました。



▲交通安全宣言を読み上げる的場会長

無事故への決意新たに 積丹町交通安全指導員出初式

警察署長（代理）から感謝と激励を込めた祝辞が述べられました。的場会長は「私達18名の交通安全指導員は、今日よりまた

平成26年の積丹町交通安全指導員会（的場無縫会長）の出初式が2月20日、町総合文化センターで開催されました。美国神社で交通安全指導員による安全祈願が行われたのち、総合文化センターで行われた出初式では、的場会長の式辞に続き、松井町長と佐々木義文余市長と

心を新たに、交通事故防止のための活動を推進します」と交通安全宣言を読み上げ、今年一年の交通事故防止へ気持ちを新たにしました。

また、出初式に先立ち、長年にわたり交通事故防止活動に尽力された交通安全功労者4名と優良運転者24名に表彰状が伝達されました。

受賞された方々は次のとおりです。

■（一財）全日本交通安全協会
緑十字銅章
【優良運転者】
佐藤 健 治さん

■（一財）全日本交通安全協会
会長表彰
【優良運転者無事故20年以上】
八戸 良 一さん
大川 正 一さん

■札幌方面交通安全協会会長表彰
彰
【交通安全功労者】
参納 静 雄さん
成田 康 正さん

【優良運転者無事故15年以上】
菊谷 和 行さん

岩本 一世さん
入江 武次さん
坂野 武彦さん
【優良運転者無事故10年以上】
美濃 寛さん
與坂 司洋さん
山田 馨さん
小原文雄さん
藤田 昇さん
原子 耕平さん
長谷川 幾子さん
友杉 昭興さん
佐々木イワ子さん
佐井 義廣さん

■余市地区交通安全協会連合会
会長表彰
【交通安全功労者】
尾本 淳さん

【優良運転者】
丹場 優樹さん
下山 りなさん
嶋田 政義さん
三上 宏枝さん
本田 いく子さん
竹内 明光さん
山口 幸彦さん

■積丹町交通安全協会会長表彰
【交通安全功労者】
成田 大介さん

73名がスキーの技術を競う

「大覚寺杯」が今年も開催！

今年も、町内の有志20人（成田弘光代表（美国町））が主催する積丹スキー選手権大会が2月23日、野外スポーツ林スキー場で開催されました。

この大会は5年前に成田さんが「大覚寺杯」として始めたのがきっかけで、今年は幼児から中学生までの55人、大人18人の合計73人がスラロームによるスピードを競いました。中学生男子の部の優勝者には賞状とともに副賞としてスキーが手渡されるなど、大変盛りあがった大会となりました。競技は幼児から順にスタートしますが、幼児や小学生が最後まで大会を楽しめるようにとの配慮から、雪のな



かから景色を見つける「宝探しゲーム」も併せて行われ、歓声にわく親子の姿が見られました。

年々、参加者が増えていることに対して成田代表は「趣旨に賛同してもらった多くのボランティアや企業の皆さん、また仲間や家族の支えによって今年も開催することが出来ました。今後もスキーの楽しさを教えていきたい。」と話し、大会終了後に振る舞われた豚汁とともに心温まる冬の日となりました。

日司小卒業児童が製作

柏崎末羽さん、佐藤優花さん同校案内看板を設置

日司小学校6年生の柏崎末羽さん、佐藤優花さんが卒業を記念して製作した同校の案内看板が設置されています。

この場所には過去の卒業生が製作した看板が現在と同様に設置されていましたが、損傷が激しくなってきたため、「卒業製作として新たな看板を作りたい！」と今年卒業する2人が申し出たことが製作のきっかけとなり、前任地の中学校で技術・家庭を指導していた代永教頭の協力を得ながら、図工の授業や放課後を利用し、1カ月以上にわたる製作期間を経て完成しました。

高さ3mに達するこの看板は、海岸沿いの厳しい気象条件の中でも損傷を最小限に食い止めるため、金属類を表面に出さないなどの配慮がとられており、代永教頭は「設置後もメンテナンスなどを行い、長く利用していきたい。」と話していました。

2名の卒業生は、「一生懸命作ったので多くの人にみてほしい。」と大きな看板を背に誇らしそうに話していました。



黄砂の飛来に注意

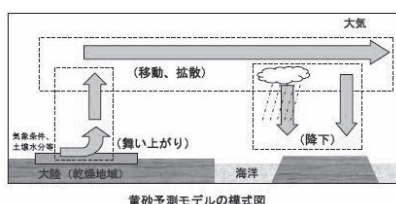
今回は黄砂現象について紹介します。黄砂とは文字どおり黄色い砂で、全国的に見ると特に4月に多く観測されています。

黄砂現象とは、東アジアの砂漠地帯や黄土地帯から強風により大気中に舞い上がった黄砂が浮遊しつつ降下する現象をいい、日本では、上空の強い西よりの風（いわゆる偏西風）によって、大陸に近い九州や時には北海道まで運ばれることがあります。

気象庁では平成16年1月から、ホームページで「黄砂情報」を提供しています。ここでは、黄砂が観測された地点の分布図や黄砂が予測される地域を閲覧することができます。

また、日本で広範囲に濃い黄砂を観測した場合や予測した場合は「黄砂に関する気象情報」なども発表しています。

花粉症や気管支ぜんそく等の方にはこの時期、外出前に確認してはいかががでしょう。



【問い合わせ先】札幌管区気象台天気相談所

TEL (011) 611-0170